

# ナンシー・フレイザー『中断された正義』を読む

参加者：海妻先生、高橋、藤島、阿部、小松、土川  
本：ナンシー・フレイザー『中断された正義』御茶の水書房、2003年

第2回勉強会では、アメリカのフェミニズム系政治哲学・正義論における代表的な論客である、ナンシー・フレイザーの『中断された正義—「ポスト社会主義的」条件をめぐる批判的省察』(御茶の水書房、2003年)を読んだ。今回は、高橋健さん(岩手大学4年)が、『中断された正義』の第1章「再配分から承認へ」、及び第7章「多文化主義、反資本主義、ラディカル・デモクラシー」の概要を発表し、海妻先生から補足説明をいただきながら、メンバーでフレイザーの議論に対する理解を深めた。以下に、発表された内容を報告する。

## 高橋健の正義論 Cooking

### 1. ロールズ「正義論」の衝撃

アメリカの政治哲学者のジョン・ロールズが1971年に著した「正義論」が、今日さまざまな論者によって多彩に展開されている規範的社会理論の最大の震源となる。「正義論」は、功利主義の挫折を中心とする道徳哲学・倫理学の状況が低迷していて世界中で社会の混迷が極まっていた時期に、正義の二原理を基底とする望ましい社会をホッブズ、ルソー的な社会契約論を下敷きに理論化して、学問横断的に甚大な影響を与えた。

### 2. 再配分から承認へ? ~ポスト「社会主義」時代における正義のジレンマ

## (1) 序論

従来の「利害」「搾取」「再配分」といった用語に集約されるような社会主義的構想が失墜し、「アイデンティティ」「差異」「文化的優位」「承認」という概念をめぐって繰り広げられる新たな政治的構想が台頭してきていて、社会的な不公正＝不正義に対する治癒策あるいは政治的闘争の目標として、文化的な承認が社会経済的な再配分に置き換えられつつある。しかし、今日の正義は「承認」と「再配分」の両方を必要としている。現時点では分離している二つの政治的な問題系を結合させることによって、はじめて私たちの時代の要求に応えられる枠組みに到達することが可能だが、今回はこの問題の一つの側面に限って考察する。どのような状況において「承認」が「再配分」を促進、または妨害するのか。この問いに答えるためのパラダイムとして、ここでは「承認」と「再配分」を要求する二価的な集合体であるジェンダーと「人種」を取り上げる。

## (2) 再配分／承認のジレンマ

- 社会の政治経済的な構造に根ざしている経済的な不公正

マルクス、ロールズ、セン、ドゥオーキンなど平等主義の理論家たちは、長年この社会経済的不公正の問題を概念化しようと努力を重ねてきた。この問題の治癒策としては、政治経済的な再構造化(再配分)である。「再配分」の結果として集団の差異化を損ね、その集団を集団として廃棄する。

- 表象、解釈、及びコミュニケーションの社会的パターンに根ざした文化的不公正

デイラー、ホネット、ヤングなど文化的不公正の問題に関して概念的な理解を試みる理論家たちが登場してきている。この問題の治癒策としてはある種の文化的または象徴的な変革(承認)である。「承認」の結果として集団の差異化を促進し、集団の独自の特性を認知することによって、集団の「集団性」に価値付与する。

以上のように、承認のポリティクスと再配分のポリティクスの主張は相互に緊張関係にあり、干渉し合い、対立することもある。(再配分／承認のジレンマ)

もちろんこの経済的不公正と文化的不公正は二つの厳密に分離された領域ではなく、大抵は重なり

合っていて弁証法的に補強しあっているが、あくまでこの二つを分析的に区別する。

### (3) 搾取された階級、侮蔑されたセクシャリティ、及び二価的集合体

- 「再配分」の極

集合体のメンバーが被っている構造上の不公正は最終的には政治経済的機構に帰着させることができる。(マルクス主義の唯物史観)マルクス主義の考え方では、階級(労働者)の搾取を克服するためには、「労働階級それ自体を廃止する」ことである。

- 「承認」の極

集合体のメンバーが被る構造的不正は最終的に文化・価値的構造に帰着させることができる。この種の集合体に近似する例として、侮蔑されたセクシャリティ(ゲイ、レズビアン)が挙げられる。この不公正の是正策は、侮蔑されたセクシャリティを再評価し、ゲイとレズビアンの性的特質を積極的に承認することに合意することである。

- ジェンダーと「人種」

ジェンダーと人種は「再配分」の極と「承認」の極の中間に位置し、政治経済的な側面と文化・価値的側面を含まれる二価的集合体である。つまり、二価的集合体は社会経済的な不均衡配分と文化的誤承認の両方で苦しむのである。従って、ジェンダー的、人種的不公正を是正しようとするとき、再配分／承認のジレンマに直面する。このジレンマを乗り越えることができるのだろうか。

### (4) 肯定か変革か：治癒策の問題再訪

不公正の治癒策として再配分／承認の分断を横断する二つの大きなアプローチとして「肯定」と「変革」を提示する。「肯定」とは社会配置の不均衡な結果を、それらを生じさせている社会的基盤をかき乱すことなく、是正することを目指す。「変革」とは問題を生じさせている社会的基盤の枠組みを再構造

化することによって、不均等な結果を正すことを目的とする。

	肯定	変革
再配分	<b>リベラルな福祉国家</b> 既存の集団間のシェアの表層的再配分 集団の差異化を支持 非承認も起こりうる	<b>社会主義</b> 生産関係の深層的再構造化 集団間の差異が曖昧になる 非承認のいくつかの様式の是正に役立つこともある
承認	<b>主流派の多文化主義</b> 既存の集団間の尊重の表層的再配置 集団間の差異化を支持する	<b>脱構築</b> 承認関係の深層的再構造化 集団の差異化を不安定にする

※ナンシー・フレイザーによれば、上記の表の社会主義と脱構築の組み合わせが最も優れている。

#### (5) ジレンマの克服:ジェンダーと「人種」を再訪して

- ジェンダー的不公正、人種的不公正を是正するための肯定的再配分と肯定的承認

ジェンダー的不公正を是正するために仕事や職場の特性や数はそのままにして、女性に既存の仕事や教育の場の公正なシェアを確保する差別撤廃措置や、女らしさに意味を与える二元論的なジェンダー・コードは温存したまま、女らしさを再評価することによって女性に尊厳を保証しようと努力する。同様に、人種的不公正を是正する場合にも仕事や職場の特質や数は据え置きしたまま、有色の人々に対して既存の仕事や教育の場の公正なシェアを確保し、「黒性」を再評価することによって有色の人々に対する尊敬を確保しようと努力する。しかし、このシナリオは問題を孕んでおり、結果として非承認を悪化させる危険性がある。

- 変革的再配分と変革的承認

変革的再配分はある種の社会主義フェミニズムかフェミニスト社会民主主義の形をとり、変革的承認は、ジェンダーの二元論に揺さぶりをかけることによって男性中心主義の打倒を目指すフェミニスト脱構築に見られる。このシナリオは肯定的再配分、承認よりも問題はずっと少ない。脱構築フェミニズムの長期的目標は、階層的なジェンダー二分法が多様で変化する差異の複数性の交差点のネットワークにとって代わられるような文化を実現させることである。

脱構築は、不公正にジェンダー化された経済に見られるジェンダー的差異の沈殿または凝結に反対する。アイデンティティと差異の新たな構築物が自由に作り上げられ、そしてすばやく脱構築される。弱点としては、大部分の女性の現在、文化的に構築されている身近な関心やアイデンティティから隔絶していることである。「人種」についても類似の帰結が生じる。

## (6) 結論

相互に交差する数多くの不公正に対して、他のオルタナティブよりも社会主義と脱構築の組み合わせが優れていると考えられるのは、次の三つの理由がある。

- ①ジェンダーと「人種」について議論は二価的集合体のすべてに当てはまる。
- ②階級、「人種」、ジェンダー、セクシャリティが交差した場合は、変革的解決策の必要性が高まる。
- ③この組み合わせが最も連携を生み出しやすい。

中断された正義を回復するためには、再配分と承認のオルタナティブな概念を求める必要性があるのである。